

大学生・大学院生のアイデアが地域を救う
ビジネスプラン・グランプリから地域の課題を解決！

小野 采奈
枚方市立中央図書館

1. はじめに

枚方市は平成21年(2009)をピークに人口が減少しており、市の課題としても少子高齢化が挙げられており、待ったなしの状況である。近隣市(寝屋川市、交野市)を含めた3市を単位に設置された「北大阪商工会議所」、枚方地域を中心に中小企業や大学、自治体・商工会議所及び産業支援機関、地元金融機関など産学公が一体となって、地域中小企業の持つ基盤技術の高度化や新技術・新産業を創出することを目的に発足した「ひらかた地域産業クラスター研究会」、創業支援や経営相談を行っている「枚方市立地域活性化支援センターひらっく」など、企業への支援や賑わい創出のための取り組みは多数あるものの、枚方市立図書館ではビジネス支援を行っておらず、大きく波に乗り遅れている状態である。

すでに始まっている取り組みを上手く活用しつつ、今までとは異なる切り口から市の魅力をアップさせ、賑わいを創出するべく、次のような事業を提案する。

2. 枚方市の概要と課題

枚方市は、人口は約39万人の中核市として大阪と京都の中間地点に位置するベッドタウンである。主要産業は第3次産業で、市内事業者の約半数が従業員数1~4人の小規模事業者である(※1)。日本全体の課題である少子高齢化は、枚方市でも問題となっており、平成21年(2009)をピークに微減傾向が続いている。今後の推計においても、令和5年(2023)から令和15年(2033)までに約19,900人、令和25年(2043)までに約52,500人、令和35年(2053)までに約89,000人の減少が予想されており(※2)、早急な対応が必要である。特に、枚方市東部地域は、今後30年間で最も人口減少率が高いと予想されている。東部地域には、日本の原風景ともいえる里山が今も残されており、中でも穂谷の里山は平成21年(2009)に「にほんの里100選」に選ばれており(※3)、東部地域の活性化に向けたニーズ調査を行うと、アウトドアやスポーツなどの余暇を楽しめる場所や、里山や豊かな自然について保全・活用、カフェ、レストラン、ベーカリーなどのニーズが高いとの結果が出ている(※4)。地域活性化のために市としても力を入れており、「枚方市東部地域の活性化に向けた観光資源の指定基準」を定めている。

また、枚方市の中心地に当たる枚方市駅周辺には、かつて百貨店などの大型商業施設が立ち並んでいたが、現在はいずれも閉店し、未活用地が増加している。また、居住人口も減少しており、この未活用地の活用、新たな賑わいの創出、居住人口の増加が課題として挙げら

れている(※5)。現在は再開発が進んでおり、マンションや商業施設が建設中のため、さらなる賑わい創出が必要となると想定される。

枚方市の特徴としては、市内に大学が多いという点が挙げられる。市内には5つの大学があり、学部の種類も外国語から医学、農学と幅広い。大学入学に伴い多くの若者が転入してくるものの、卒業とともに転出するため、人口増には繋がっていない(※6)。大学との連携という面では、現在「ひらかた地域産業クラスター研究会」で大学と連携して研究等を行っているが、学生自身が事業の企画、提案を行うような流れは見受けられない。枚方市としては、枚方市農業振興課と摂南大学農学部が農業振興・食などについて地域課題の解決及び地域の活性化を目的とした包括連携協定を締結し、生産量府内一である杉北町のすももを使用した「すももサイダープロジェクト」を立ち上げ、令和3年(2021)に6000本を製造している(※7)。

このことから、図書館として少子高齢化問題解消、市の賑わい創出のため、大学生・大学院生対象のビジネスプラン・グランプリを実施し、枚方市内で起業してもらえよう支援を行い、起業後も切れ目なく支援を行う事業を提案する。

3. 事業の対象者

本事業の対象者は、市内の大学に通う大学生、大学院生である。また、創業後の支援については既存企業に対しても行うことができるため、こちらも対象に含める。既存企業については、若いお客さんを増やしたいと考えている企業に対して積極的に支援を行っていく。連携先としては、枚方市商工振興課、北大阪商工会議所、地元信用金庫、日本政策金融公庫とする。

4. 事業内容

①大学生・大学院生ビジネスプラン・グランプリ開催

大学生・大学院生を対象として、ビジネスプラン・グランプリを開催する。このビジネスプラン・グランプリのテーマを、「枚方市内で起業するなら何をする?」として市内で起業しやすいようにする。想定起業区域を設け、「市内全域」と「東部地域」を、テーマとともに毎年交互に設定する。

市内5つの大学に対してPRを行い、参加者を募集する。図書館としては資料と場所の提供を行い、期間中は館内に特集コーナーを設置する。日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」の様子をまとめたパネルを作成し、図書館の正面玄関に設置することで、ビジネスプラン・グランプリとは何なのか、こういった内容なのか周知を行う。各大学にも協力を依頼し、パネルを各大学のキャンパス内にも設置しつつ、図書館職員自身がキャンパス内でチラシを配布するなどの広報活動を行う。

大学進学とともに枚方市にきた学生は枚方について知らない人も多いため、ビジネスプラン・グランプリの事前説明会として、枚方市の歴史や地理、現在の課題などを説明し、関連資料の貸出を行う。

またビジネスプラン・グランプリの開催にあたっては、日本政策金融公庫に協力を仰ぐ。

ビジネスプラン・グランプリの審査員は、枚方市商工振興課職員、北大阪商工会議所等連携先として提示した対象に協力依頼するほか、市内既存企業を追加する。市内企業ならではの視点や、行政には見えていない地域課題等からの意見や評価を受けることにより、ビジネスプランの更なるブラッシュアップに繋がると考えられる。この審査員の市内既存企業は公募で、5社程度選定する。参加企業はビジネスプラン・グランプリを開催している一定期間の間、図書館内で企業紹介パネルや自社製品を展示することができるようにする。参加企業としては、図書館来館者に対して無料でPRを行うことができるほか、ビジネスプラン・グランプリに参加している大学生・大学院生やその関係者に対して、将来の就職先として自社を紹介することができる。こういった審査員として参加することによるメリットを提示し、参加希望企業増加を図る。大学生・大学院生としては、創業をしなくとも枚方市内にある企業を知ること、就職のきっかけとなる可能性もある。

②創業支援

ビジネスプラン・グランプリで企画した内容で起業したい、ビジネスプラン・グランプリには参加していないけれど、卒業と同時に枚方市で起業したいといった大学生・大学院生を主な対象として、創業支援を行う。北大阪商工会議所、枚方市立地域活性化支援センターひらっくと連携し、創業希望者と関係機関を結びつつ、サポートを行っていく。大学生・大学院生が起業する場合、特に課題となるのは資金面であると想定される。枚方市では、枚方市、北大阪商工会議所、枚方信用金庫、日本政策金融公庫が連携しており、条件に当てはまれば事務所の家賃の半分補助、会社設立時の登録免許税が2分の1軽減されるなどの資金面に関する支援もある(※8)。こういった資金面の支援について枚方市商工振興課職員による説明会を図書館にて開催する。

また枚方市は東海道の56番目の宿場町であるため、この景観を残す地域で毎月第2日曜日に「五六市」という手作り市を開催している。事業内容によっては、五六市で出店することも可能なため、こちらについても出店方法などの案内、サポートを行う。五六市で実際に店舗を構え営業してみることで、お客さんの感想を聞いたり、起業した場合のイメージを膨らませることが可能になると考えられる。

③創業後の支援

小規模企業は、小規模であるがゆえに相談するという行為そのものにもハードルが多い。相談時間を確保することが難しく、経営上やそれ以外の課題についても、誰かに相談することが少なく、また相談する相手もごく少数の関係者などなりがちで情報が偏りやすく、さらに事業再生や事業継承などの経営上の大きな課題であれば先送りにされやすい、と東京都中小企業振興公社の中小企業リバイバル支援事業報告書(※9)にある。創業直後の企業や、

枚方市内の半数を占める小規模事業者も同様の状態にあることが想定される。

図書館としては気軽に相談できる、ビジネス支援専門の窓口を中央図書館内に開設する。関係機関と利用者を繋ぐレフェラルサービスは当然のこと、多忙な経営者に代わって必要な情報を集めるなどのサポートを行う。相談をする時間もないという小規模企業の現状も考慮し、e-レファレンスを活用したビジネス支援専用の相談ホームページを開設する。

しかし、枚方市内では図書館が調べものに役立つという認識がまだまだ根付いていない。商工会議所やひらっくを通してビジネス支援を周知しても、限界があると考えられる。この問題を解消するため、各地域の商店街で実施しているまちゼミとコラボし、ブックリストを作成、配布依頼をしつつ、各商店の現在の課題などを図書館職員が聞き取り、これに対して回答するという出張ビジネス支援サービスを展開する。

また、今後若い顧客を増やしたい小規模事業者をメインに、事業者と大学生・大学院生創業希望者の懇談会を開催する。小規模事業者は事業ノウハウ、経験談を創業希望者に提供し、創業希望者は若者の流行やニーズなどの情報、意見を小規模事業者に提供する win-win の関係を構築する。

5. おわりに

ビジネスライブラリアン講習会を受講して、まず感じたのは、ビジネス支援を始めるには地域の課題や現状、市の政策をきっちりと把握することが重要であるということだった。予算要求の担当として業務を行っているが、図書館も行政の一部であるため、市全体の流れに逆らった事業に対しては予算が付きにくいことを、身をもって実感しているところである。図書館職員として利用者のニーズを掴みつつ、市全体の流れと上手く調和させて事業を進めることが、今後の図書館の生き残りに関わってくるのではないかと思った。

また、図書館で仕事を始めて感じたのは、業務全体的に受け身になっているという点だった。受け身になるのではなく、図書館から動いていくことが重要であると考え、今回提案した事業の中にも、図書館から利用者に歩み寄っていくような内容を加えた。しかし、新しいサービスを展開するには、サービスを継続させるための人材育成と、図書館内の理解を得て、協力者を増やすことが重要である。予算がなくても始められるサービスはあるということ、今回の講習を通して様々な講師の方がおっしゃっていた。枚方市では、まだビジネス支援を行っていないが、予算がなくても行うことができるサービスから展開し、まずは図書館内の協力者を増やすべく、種まき活動を始めたいと思う。

6. 引用・参考

※1 「市場情報評価ナビ MieNa 2023 年度版 特定市町村レポート 大阪府枚方市」
令和6年3月2日閲覧

※2 「枚方市将来人口推計調査報告書」 令和5年11月 枚方市
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000049/49106/houkokusho.pdf>

※3 「東部地域の里山（とうぶちいきのさとやま）」
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000004682.html> 令和6年3月16日アクセス

※4 「枚方市東部地域の活性化に向けて」 令和4年3月 枚方市
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000037/37244/kasseika.pdf>

※5 「枚方市駅周辺再整備ビジョン」 平成25年3月 枚方市
https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000001/1879/72613_171269_misc.pdf

※6 「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂版」 平成30年3月
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000007/7710/senryakuzenbun.pdf>

※7 「【農業の6次産業化】摂南大学と市で「すももサイダー」開発！」
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000037265.html> 令和6年6月2日アクセス

※8 「枚方市で創業を志す方へ「夢の具体化から経営まで全力でサポートします」
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000006968.html> 令和6年6月2日アクセス

※9 「中小企業リバイバル支援事業報告書」 平成20年2月
<https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/revival/files/revival-all.pdf>